

gakuto

学塔



2009.Autumn

No.124



クローズアップ
自著を語る「“高い声を手に入れる”
奇跡のハイトーンボイストレーニング」
これだけは読んでおきたい
各学部の先生からのオススメ本

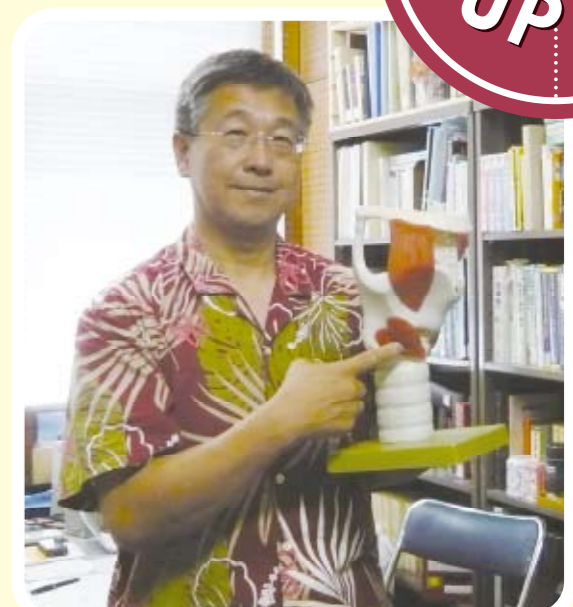
From Students
こんにちは!環境ISO学生委員会です

ブックロウのPick Upコーナー!!
図書館ツアーを実施しました
データベースで、新聞記事を探してみよう

News!
秋の講習会のお知らせ

特集 秋といえば…
図書館の秋!

自著を語る。



どついたら歌がもつとまく思い通りに歌えるのか? 科学的根拠に基づいた新発声法「YUBAメソッド」を開発し、世界ではじめて音痴矯正に道を開いた弓場先生にお話をうかがいました。

■どついたらうまく歌えるようになる? 先生の研究について教えてください。

僕の研究の基本部分は3層になつてくるんですよ。まずは、僕が創設した「発声機能解剖生理学」で、どのように声が出ているかを新たな視点から研究するための学問です。この上に、どんな声を真似させるとこの筋肉が働き発声機能をうまくコントロールできるのか、という「YUBA理論」(発声機能制御理論)を構築しました。そして、この「YUBA理論」の上に、効率よく発声するための実践法「YUBAメソッド」があります。現在では、この3層からなる研究を土台として、その上に色々な実践的応用研究を展開しています。

■教え方がみんな違う、おかしい。学生時代はどんな学生だったのですか? 周りからは、変わり者だと思われていたと思います。体

という科学の上に成立しているものだとということ。オモテ声を徐々に高くしていくと、途中でコロッとウラ声にひっくり返るところがあります。ここを換声点と言います。音が外れたり、音質や音量が変わったりしてしまいます。ですから、「YUBAメソッド」では、換声点を消すために、ウラ声を作る機能とオモテ声を作る機能を協調させ、声を楽器として作り上げることが最も重要なことだと考えています。

「YUBAメソッド」で身につける6つの発声能力
1. 広い音域を楽に歌える
2. 音量を自由にコントロールして歌える
3. 正確な音程で歌える
4. 一息で長く歌える
5. 明確な発音で言葉のニュアンスを的確に表現して歌える
6. 音色の変化を自由につけて表情豊かに歌える

人工内耳装用者は音程通りに歌えないとされていますが、東京大学医学部附属病院でのこのメソッドを用いた研究により、かなり歌えるようになることがわかってきました。これもYUBAメソッドだからできることの一つです。



地道にメソッドを教えて広めていくだけでは、なかなか日本中、世界中の多くの人々が使えるようにならないので、DVDやCDを製作しています。年内にも、大学発ベンチャーで、ネット上のコンテンツ配信も行う予定です。基礎研究もある程度

弓場 徹先生 教育学部
「“高い声を手に入れる” 奇跡のハイトーンボイス トレーニング」
プログラムCD付き
高い声を手に入れる 奇跡のハイトーンボイス トレーニング
(主婦の友社 2004)
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 767.1/Y 96

の重心が的確に感じられれば効率よく体をコントロールできるので、声を出すのにプラスだろうと考えて、一輪車に乗って通学していました。だから僕の同級生は大体、一輪車の弓場で記憶しかなかったようなんです。それから、尊敬する声楽の柴田陸教授の家に毎日のように入り浸っていました。「真に学びたい者は、偉大な人物の前に座れ」という格言が的を射ていると考えていました。この先生の傍に居る時は芸術的に深い感動が得られました。学部時代は、音声障害を患っていたため発声機能について知ろうと医学書など発声関連の本をよく読んでいたのですが、人の発声機能は皆同じだと見定めていました。だから、「声を集めて飛ばせ」「音を回せ」「顔面の響きを保つて」「息をコントロールして」など、先生によつて歌の教え方が違うのは根本的にどこがおかしいかと思っていました。先述のように、僕の発声メソッドは、「発声機能解剖生理学」や「発声機能制御理論」つまりYUBA理論

■科学の上になり立つ、これまでと違ったメソッド。改めて、YUBAメソッドについて教えてください。先述のように、僕の発声メソッドは、「発声機能解剖生理学」や「発声機能制御理論」つまりYUBA理論

■探すセンスを磨いてほしい。最後に三重大学生へのメッセージをお願いします。私が高校時代から追っていたのは3つです。1つ目は、新規性。まだ誰もやったことのないことをやろう! 2つ目は、普遍性。時間が経つても色あせない普遍法則を発見しよう! 3つ目は、汎用性。つまり、普遍法則を利用して、時代にマッチし変幻自在に適応させよう! こういうものを探すのはすごく苦労するのですが、苦労するだけの価値は十分にありますよ。そういう考えを持って頑張っていれば、将来何か見つける可能性はあるんです。

インタビューでは、たくさん歌を歌っていただき、その美声に圧倒されました。掲載できないのが非常に残念です。弓場先生ありがとうございます。

弓場 徹先生 PROFILE
新発声法「YUBAメソッド」を構築し、世界ではじめて科学的な音痴矯正法を開発。2005年までに1000以上の成功例があり、ジャンルを問わず国内外の多くのプロ歌手の指導も行う。
HP: http://www.good-voice.com
MIUSE: http://miuse.mie-u.ac.jp/

READING LIST

これだけは読んでおきたい!! 各 学部の先生からのオススメ本

人文学部 藤本真理先生
カズオ・イシグロ 著: 土屋政雄 訳
『わたしを離さないで』
早川書房 2006.4
[所在] 図・開架・図書 / 人・英語米文学
[請求記号] 933/I 73

教育学部 石谷寛先生
朝永振一郎 著
『鏡のなかの世界』
みすず書房 1965.12
[所在] 図・開架・図書 / 図・書庫
[請求記号] 049/To 62

医学部 成田有吾先生
アリス・ウェクスラー 著: 武藤香織, 額賀淑郎 訳
『ウェクスラー一家の選択: 遺伝子診断と向きあった家族』
新潮社 2003.9
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 493.75/W 64

工学部 木村文隆先生
D.A.ノーマン 著: 野島久雄 訳
『誰のためのデザイン?: 認知科学者のデザイン原論』
新羅社 1990.1
[所在] 図・開架・図書 / 図・書庫 / 看護学習ホール / 工・建築計画
[請求記号] 501.8/N 96

生物資源学部 伊藤進一郎先生
ニコラス・マネー 著: 小川 真 訳
『チョコレートを食べたカビ・キノコの話: 植物病理学入門』
築地書館 2008.8
[所在] 図・開架・図書 / 生・森林生物循環学
[請求記号] 615.6/Mo 33

共通教育 中田康行先生
スウィフト 作: 平井正穂 訳
『ガリヴァー旅行記』
岩波書店 1980.10
[所在] 図・開架・PB / 図・書庫
[請求記号] 933/Sw 7

1989年
ニュース
Pick Up!

- 昭和から平成へ
- 消費税施行
- バブル景気

そして20年前、
世界では…

「ベルリンの壁崩壊及びドイツ再統一」 記念展

写真展

- 日時／2009年11月6日(金)～15日(日)
- 会場／三重大学附属図書館
- 【入場無料・事前申込不要】

記念講演会

- 日時／2009年11月8日(日) 13:30～
- 会場／三重大学講堂小ホール
- 講師／大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館
- 【入場無料・事前申込不要】

詳細は、附属図書館Webサイトから
URL: http://www.lib.mie-u.ac.jp/exhibition/berliner_mauer/

壁の長さは、
なんと155Km!



皆さんが身につけたい知識は?… 教養の秋

たとえば、二十歳の皆さんが生まれた頃、日本はどんな時代だった?

当時の
税率は3%



『知っているようで知らない
消費税: 「超」税金学講座』
野口悠紀雄 著
／新潮社 2006



『バブル文化論: 「ポスト戦後」
としての一八〇年代』
原宏之 著
／慶應義塾大学出版会 2006

感性を磨こう… 芸術の秋

いろいろな芸術に触れてみよう!



『アルフォンス・ミュシャ作品集
: アール・ヌーヴォーの華』
アルフォンス・ミュシャ 画
ドイツ文化事業室 編
／創英社(発売) 2004



『オペラの楽しみ方
完全ガイド』
江森一夫 編著
／池田書店 2008



『もっと知りたいウィリアム
・モリスとアーツ&クラフツ』
藤田治彦 著
／東京美術 2009

実際の芸術に
触れてみよう…

三重大学レクチャーコンサート 新進オペラ歌手が競う愛の讃歌

- 日時／2009年10月18日(日) 14:00開演(13:30開場)
- 会場／三重大学講堂大ホール
- 【入場無料・事前申込不要】

詳細は、附属図書館Webサイトから
URL: <http://www.lib.mie-u.ac.jp/exhibition/opera09/>



新国立劇場オペラ研修所顧問
海老澤 敏 先生



掲載写真は、昨年の様子です。



秋の味覚はたくさん… 食欲の秋



『おとなのねこまんま
: あったかごはんを
極うまに食べる136』
ねこまんま地位向上委員会 編
／泰文堂 2009



『高校生レストラン
ひみつのレシピ』
相可高校調理クラブ 編
／伊勢新聞社 2009

アクティブに… スポーツの秋



『テニスワンポイント
レッスン500』
T.tennis編集部 編
／学習研究社 2009



『バスケットボールパーフェクトマスター:
トッププレイヤーが教える基本テクニック!』
佐古賢一 著
／新星出版社 2006

しっとりと… 読書の秋



『パラドックス13』
東野圭吾 著
／毎日新聞社 2009



『1Q84: a novel』
村上春樹 著
／新潮社 2009

特集

秋といえは…

図書館の秋!

皆さんは、どんな秋をお過ごしですか?
図書館を活用して、“実りの秋”にしてくださいね!





ブックロウの Pick Up コーナー!!

図書館のホームページ
<http://www.lib.mie-u.ac.jp/>
から Check it out !!

「4つの力」スタートアップセミナーにて、図書館ツアーを実施しました

4月から始まった新しい初年次教育「4つの力」スタートアップセミナーで、図書館ツアーをしました。約980名の皆さんが、参加してくださいました。

2階の新着雑誌棚の扉が、まさか開くとは…。



新聞の縮刷版が印象に残った!



想像以上の本の多さにびっくり。



雑誌が製本されていた。



各大学の論文が置いてある大学紀要コーナーはすごい!



僕、玄関ホールでみんなを待ってたよ



図書館マスコットキャラクターブックロウ

データベースで、新聞記事を探してみよう

朝日新聞、中日新聞、日本経済新聞は、データベースを使ってオンラインで記事を読むことができます。

聞蔵Ⅱ



朝日新聞記事データベース (同時アクセス各1)

中日新聞・東京新聞記事検索サービス



中日新聞、東京新聞記事データベース (同時アクセス1)

日経テレコン21



日本経済新聞、日経産業新聞、日経MJ(流通新聞)、日経金融新聞のデータベース (同時アクセス2)

秋の文献検索講習会で、新聞記事データベースとJapan Knowledge+NRを紹介する、就職活動にも役立つ講習会を開催します。

2日間限定!

◎詳細は本誌8頁をご覧ください。



紹介したデータベースは、附属図書館Webサイトより利用できます。(学内利用)

附属図書館Webサイト URL: <http://www.lib.mie-u.ac.jp/>



こんにちは! 環境ISO学生委員会です

環境ISO学生委員会の皆さんが、活動を紹介してくれました。三重大学や地域社会で、環境についての活動を続けています。そして図書館でも、2階環境情報コーナーの書架整理や展示などで活躍しています。活動の様子は、Webサイトでもチェック!!

環境ISO学生委員会Webサイト <http://www.iso.mie-u.ac.jp/student/>

主な活動の紹介

グリーンキャンパス部

グリーンキャンパス部は、地域にひらかれた大学を目指し、キャンパスパークプロジェクトが様々な活動を行っています。

自転車プロジェクト



放置自転車を撤去することで、景観の悪化などの問題を解決し、同時に修理可能な自転車を再利用することで、資源を有効に活用しています。

緑化プロジェクト

構内緑環境の再整備や花壇の整備を進めています。今後はさらに花壇を増やすなど、三重大学が緑溢れる大学になるような活動をしていきます。



Etc...

地域連携部



地域連携部は地域貢献活動として、地域の町屋百人衆の方と「素足で走れる海岸」を目的とする町屋海岸清掃、そして、北立誠小学校の児童と町屋海岸の環境問題について考える環境学習を行っています。

広報部

環境に関する図書が多く揃う図書館2階の環境情報コーナーにおいて、学内の古紙で再生されたトイレットペーパーの実物展示や、生協のレジ袋削減に関する模型展示など、学生委員会の活動紹介を行っています。

また、環境情報コーナーの図書配置図を作成して書架上に設置し、学生委員会が選んだおススメの環境図書の一覧ポスターを掲示したりなど、環境情報コーナーの利用促進を図っています。



なぜ活動の場の一つが「図書館」なのか?

多くの学生が利用する図書館で学生委員会の活動紹介を行うことで、多くの学生に向けての広報活動ができ、学生を巻き込んだ三重大学の環境活動を行うことができると考えたからです。また、図書紹介や書架整理によって環境情報コーナーの利用者増進を図ることは、高い環境意識をもった学生を増やすことにつながると考えたからです。

みなさんへのメッセージ

私たちは日々三重大学の環境の向上に取り組んでいます。実は、今回こちらで紹介した以外にも私たちは多くの活動を行っています。どれも皆さんに身近なものばかりですので、私たちの名前を聞いたら、ちょっとだけ覗いてみてください。一緒に三重大学の環境を良くしていきましょう!

秋の図書館講習会を開催します！

	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI
	10/19	10/20	10/21	10/22	10/23
午前	国内	海外	海外	レポート	プレゼン
午後	レポート	プレゼン	新聞	国内	海外
	10/26	10/27	10/28	10/29	10/30
午前	レポート	国内	プレゼン	海外	レポート
午後	海外	レポート	海外	プレゼン	国内
	11/2	11/3	11/4	11/5	11/6
午前	プレゼン	—	国内	新聞	—
午後	国内	—	プレゼン	海外	—

実施期間・内容は左の日程表で確認してください。
当日参加も大歓迎です。ふるってご参加ください！

時 間：午前10:30～12:00 午後2:40～4:10

予約優先：参考調査カウンター・電話・E-mailにてお申し込みください

連絡先：附属図書館情報リテラシー担当
(電話) 059-231-9089
(メール) literacy@ab.mie-u.ac.jp



- 国内** ← CiNiiを使って国内の文献を探します
- 海外** ← Web of Scienceを使って海外の文献を探します
- レポート** ← レポートの書き方の入門です
- プレゼン** ← プレゼンテーションをするための入門です
- 新聞** ← データベースを使って新聞記事を探します

展示図書コーナー新着図書

(2009年1月～6月発行分)

- 畑中重光 副学長／『鉄筋コンクリート構造：理論と設計』
谷川恭雄 [ほか] 著. 第3版, 森北出版, 2009.3 [524.7/Te 31]
- 目崎茂和 名誉教授(人)／『天空の神話：風と鳥と星』 篠田知和基 編. 楽蔭書院, 2009.3 [162/Te 36]
- 久野和宏 名誉教授(工), 野呂雄一 工学部准教授／『音響学ABC：音・振動との出会い』
久野和宏 [ほか] 著. 技報堂出版, 2009.2 [501.24/0 66]
- 安食和宏 人文学部教授／『現代東南アジア入門』
藤巻正己, 瀬川真平 編. 改訂版, 古今書院, 2009.3 [292.3/G 34]
- 濱森太郎 人文学部教授／『松尾芭蕉作『野ざらし紀行』の成立：文字データベースによる用字解析』
濱森太郎 著. 三重大学出版会, 2009.2 [915.5/H 22]
- 山中 章 人文学部教授／『桓武と激動の長岡京時代』
国立歴史民俗博物館 編. 山川出版社, 2009.1 [210.36/Ka 56]
- 片山直之 医学部教授／『血液内科ベッドサイドメモ』
小松則夫, 片山直之 編 著. 中外医学社, 2009.6 [493.17/Ko 61]
- 金子聡 工学部准教授／
『Photo/electrochemistry & photobiology in environment, energy and fuel』
chief editor, Santoshi Kaneco ; editors, Kunihiro Funasaka, Yoshinori Arachi. Research Signpost, 2009 [572/P 56/2009]
- 松浦健治郎 工学部助教／『住民主体の都市計画：まちづくりへの役立て方』
住民主体のまちづくり研究ネットワーク 編 著. 学芸出版社, 2009.3 [519.8/J 94]
- 木村清志 生物資源学部 教授水産実験所長／
『Fishes of Andaman Sea, west coast of southern Thailand』
edited by Seishi Kimura, Ukkrit Satapoomin and keiichi Matsuura. National Museum of Nature and Science, c2009 [487.52237/F 28]

【見かた】→ 寄贈者 所属／『書名』 著者, 出版社, 出版年月【請求記号】

※本の表紙画像は、出版社の許諾を得て掲載しています。

編集後記



●表紙の写真：表紙の写真はインターンシップで図書館へ来ていただいた伊藤さん(左)、清川さん(右)です。お二人には資料の整理や受け入れ、他館からの文献取り寄せ、カウンター業務などを体験していただきました。

「音痴」という言葉を聞くと、筆者などは『広辞苑』第1版の定義「生理的欠陥によって正しい音の認識と鑑賞と記憶とができないこと。」が、この定義の後半部分の各語の頭音を並べるとニンカンキとなる語呂のよさもあって覚えやすく記憶に染みついていて、すぐに頭に浮かんでくるが、弓場先生のインタビュー記事に目を通した今回は、それとともに、風呂の中で少年合唱団の団員だった弟に、簡単に言えば歌がへただということを書信的に言うところなるのだと兄貴風を吹かして説明した中学生の頃のある夏の日の夕方が鮮やかに想い出された。